

都道府県名	福井県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	南条小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	65	59	57	56	67	69	7	380	

II 研究の概要

1 研究主題

自ら学び、考え、確かな学力を身に付ける子の育成  
 —— 国語科・算数科における指導方法の工夫 ——

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

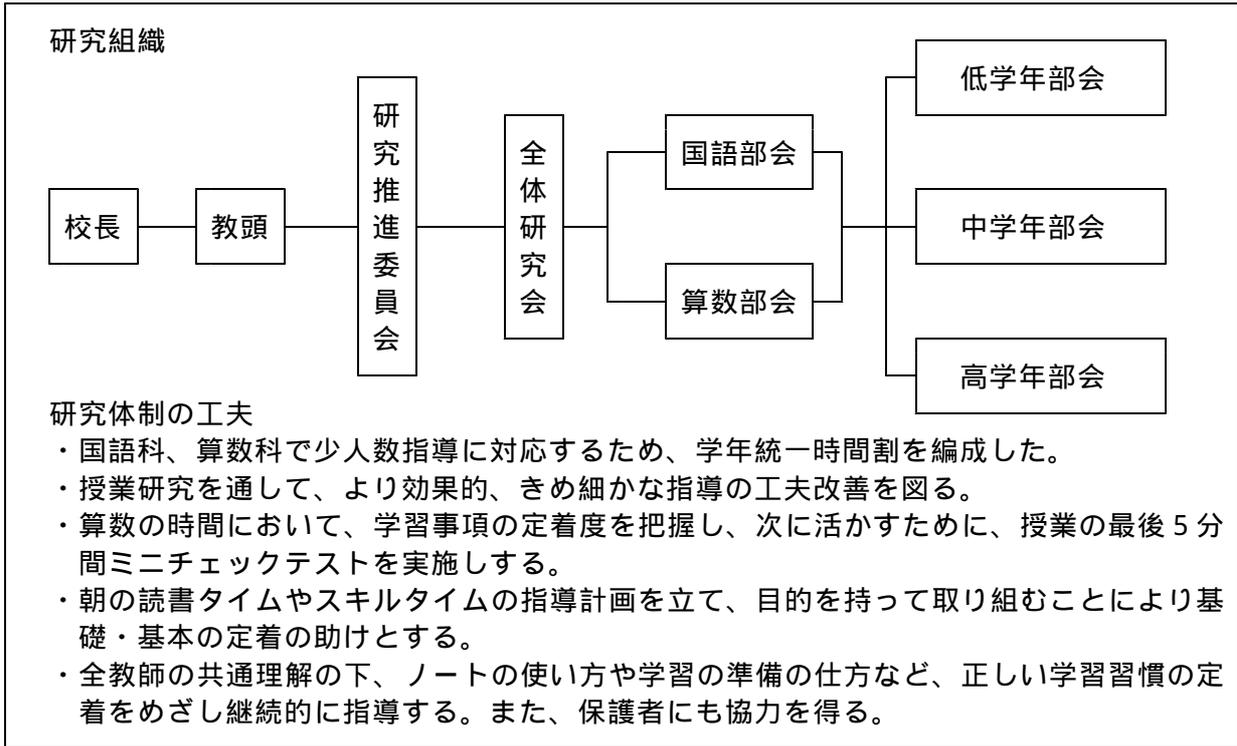
1, 2年・・・TT指導（国語科、算数科）  
 3, 4, 5, 6年・・・TT指導と少人数指導（国語科、算数科）  
 単元によって、習熟度別および課題別に、2クラスを3～4コースに分ける  
 3, 4, 5, 6年・・・一部教科担任制（理科）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          「自ら学び、考え、確かな学力を身に付ける子の育成」          —— 国語科・算数科における指導方法の工夫 ——</p> <p>研究の見通し          ・児童の問題解決力を伸ばし、「確かな学力」の向上を図るための個に応じた効果的な指導方法を探る。</p> <p>研究の内容・方法          ・本校児童の学力調査および学習への意識調査結果の分析          ・他の学力向上フロンティア校の実践研究の把握・検討          ・校内研究会で「確かな学力」の定義や指導方法の工夫改善についての共通理解          ・効果的に働く国語科、算数科の少人数対応年間指導計画立案          ・授業形態の研究とスキル学習などの充実          ・少人数指導等の指導方法の工夫・改善について、保護者への啓発および理解と協力</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成16年度	<p>テーマ          「自信を持って、生き生きと学び続ける子の育成」・・・予定</p> <p>研究の見通し          ・1年間の取組みから得た「個に応じた指導方法の工夫改善策」を再検討し、さらに児童の「学ぶ意欲」を高め、「生きる力」を育成していく。</p> <p>研究の内容・方法          ・15年度の反省や課題を元に、授業形態の更なる工夫と指導計画の再編成を行う。          ・研究の成果を伝え、保護者や地域の理解と協力を得る。</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

( 3 ) 研究推進体制

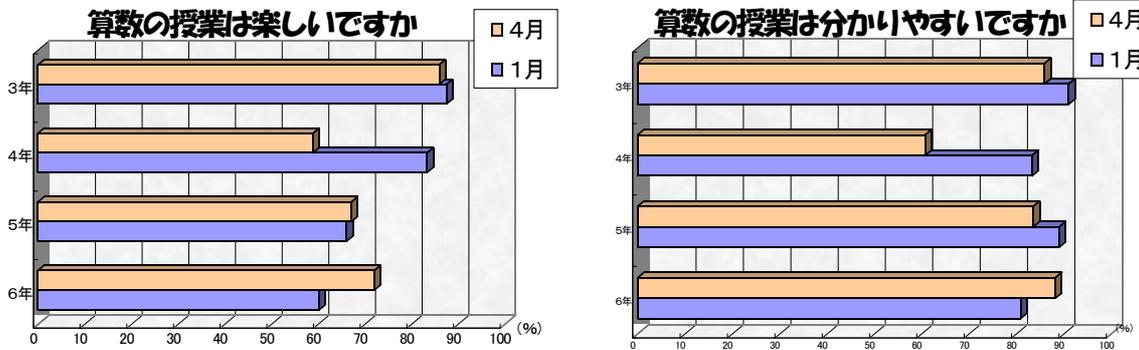


Ⅲ 平成 15 年度の研究の成果および今後の課題

1 研究の成果

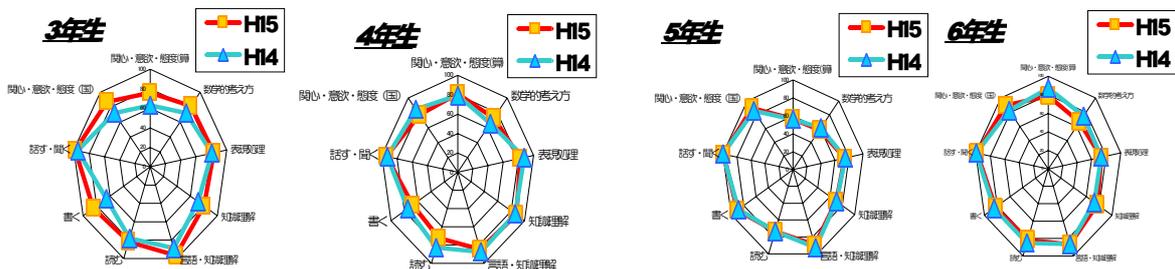
本校では、「自ら学び、考え、確かな学力の育成」を掲げ、児童の学習に対する意識の変化と学習の基礎・基本の定着とを把握するために調査を計画的に行った。

次のグラフは 4 月当初と翌年の 1 月の児童の授業に対する意識調査結果の比較である。



この結果から中学年、特に 4 年の算数に対する意識が向上したことが分かる。これは 4 月の調査結果が他の学年と比較して低かったため、4 年については、2 クラス 4 人体制で指導を続けてきたことが効果的だったと考える。逆に 6 年は、昨年の 4 人体制から 3 人体制に指導者の数が減ったことが意識低下の要因と考えられる。

また、次のグラフは、昨年度 1 2 月に行った県学力調査の分析結果と、本年度 1 2 月に、同様の問題を行い、分析した結果との比較である。



本年度研究を続けた結果から、本校の児童は、国語の「話す・聞く」と「言語についての知識・理解・技能」の観点は良好と言える。しかし、算数の「数学的な考え方」の観点は他に比べて低い。このような傾向を掴んだことにより、今後の指導方法の工夫改善の方向性が見つけられた。今後も調査分析を行いながら、取り組みを続けて行くことが大切であると考えている。

## 2 今後の課題

個に応じた指導がさらに効果的に行われていくためには、児童の学習の状況を適切に把握でき、意欲を引き出す教師の資質や能力の向上が大切である。  
重点的に指導する領域や児童に定着しにくい領域の洗い出しを行い、本校のカリキュラムと評価規準の一層の充実を図る必要がある。  
発展的なコースで学習するのにふさわしい問題等の教材開発を行う。  
少人数指導においても、差別感を味わわせず、「学び合い・教え合い」の態度を身に付けさせる手立てを探る。

## Ⅳ 学力把握のための学校としての取組

### 意識調査

本校の取組に対する児童の意識を知るために、学期に1回授業に対する意識調査を行う。また、保護者にも取組みの趣旨を説明し、児童の家庭での反応などを見てもらい、取組みに対する意識調査を学期に1回行い、共通理解を図るように努力する。  
県が実施している学力調査の問題を、毎年12月に行い、観点別到達度の変化をみる。

## Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 平成15年度に中間発表会を実施

日時	平成16年2月19日(木)	午後2時20分より
テーマ	「自ら学び、考え、確かな学力を身に付ける子の育成」	
対象	丹南地区小中学校教職員、保護者等	
内容	授業公開	2年算数TT指導、6年算数少人数指導 3年国語少人数指導
	全体会	本校1年目の実践発表

平成16年度に研究発表会を予定(詳細は未定)

ホームページ作成 平成15年度の研究について現在作成中である。

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T、Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善】  有  無